

## グリーン大作戦 ペンキ塗り

9月6日、農園の建物の板張り部分のペンキ塗りをしました(写真▶)。久しく塗っていませんでしたので、かなり色あせてしまっていました。塗ると建物や周りの景色が締まって塗る前とは大きな違いが出ていました。耐久性も含めて定期的に塗らなければと思いを新たにしたところです。①



## 倉庫もすっきり

## やさしい草刈り



9月2日、電動ドライバーやチェーンソーのトップメーカーの「マキタ」さんが実演で来園されました(写真▲)。ぶどう畑で使用可能な全商品を持参され、実際に試してみました。草刈り用の刈り払い機などすべてがバッテリーで動きます。パワーも普通のエンジンと遜色なく、問題ありませんでした。エンジンからくる振動や排気ガスがないため、体にも環境にも大変やさしい機械でした。価格は少し高めですが、これからは益々、ニーズがあることと思います。①



9月6日から83坪ある大型の倉庫の片付けをしました(写真▼)。かなり以前からのものも含めて何から手を着けたらいいのか分からない状況でした。特に肥料は50年ほど前のものもありました。昔は単肥といって硫安、加里、リン酸などそれぞれの養分が別々になっていて、それを混ぜ合わせて畑にまいていました。混ぜ合わせ方はシートの上にそれぞれあけてスコップで混ぜ合わせていました。かなりの労力です。そのなごりとして硫安、加里が大切に保管されていました。時代の流れの中でその後は化成肥料がでてきました。それぞれの単肥が合わさった肥料で、作物ごとに合うよう配合比率を変えて販売されるようになってきました。一気に省力化されたわけです。現在は、有機質肥料のみを使用しているので、取引先の肥料や資材を扱う会社に引き取っていただきました。数日かけてようやく片付け、梁や壁などの埃を水で洗い落とし、きれいになりました。①



## 空のまもり

9月3日からぶどうの鳥害対策として黒テグス張りを始めました(写真▶)。黒テグスは、りんごの記事にも書いたように特にカラスには効果があるようです。今年もぶどう畑の全面積に張りました。この作業は、就労支援事業所A型の利用者のみなさんが担当しました。また、鷹のダミーも取り付けました(写真▲)。大きな鷹のダミーですが、この効果はカラスにはあまり期



待できません。最初はカラスなども警戒して近づきませんが、まもなく何もしないとわかると降りてきます。しかし、数年使用してみ、夜行性の野生動物の動きを抑制するはたらかしがあるように感じています。夜にぶどう畑などで我が物顔で動き回り食害を及ぼす動物も、得体のしれない外敵(ダミー)が上からバタバタと不気味に見え、恐れている可能性があります。①

## 編集後記

今年の北海道は、長期に亘る高温干ばつにより多くの畑作物に甚大な影響が出ています。7月～8月にかけて35℃前後の高温が1ヶ月近く続き、ぶどうの収穫も半月ほど前倒しになりました。収穫を始めましたが今のところ収量、品質に大きな影響は出ておりませんので少しほっとしています。ワイン用ぶどうの場合、高温で糖度の上りはいいのですが、大事な酸が落ちないか懸念されます。今年の仕込みで初挑戦は、メル口の全房仕込みです。全房仕込みとは、ぶどうの梗ごと全部タンクに入

れて発酵させる醸造方法です。心配されるのは梗の部分がワインにどう影響するかです。しかし、うまくできれば複雑味とコクのあるワインになります。来年の今頃、みなさんに美味しいワインをお届けすることができるのを願って収穫、仕込み作業をしています。この時期の収穫作業は、猫の手も借りたいほど人手を必要とします。現在は、農園スタッフなどと私たち夫婦合わせて7名と障がい者8名ほどのみなさんと作業をしています。いつもながら無事、収穫が終わることを祈りながら作業を続けています。(10/1) ①

# 多田農園 信通

Tada farm tsushin  
2021.10



2年前に新植したピノ・ノワールがようやく初収穫です。ジュースづくりに初挑戦することにしました



## 有限会社 多田農園

〒071-0529 北海道空知郡上富良野町東9線北18号  
Tel 0167-45-5935 Fax 0167-45-6012  
info@ninjin-koubou.com <http://ninjin-koubou.com/>



てしおに掛けて

### 日焼け粒の除去

9月13日、バックスの日焼けした粒の除去作業を行いました(写真▲)。バックスは日焼けしやすい品種と言われています。7月～8月にかけて最高気温が連日、35℃位になり強い日差しによりぶどうの粒の一部が日焼けしてしまいました。日焼けした粒は紫色になって固まってしまったので、ピンセットを使って取り除きました。この日焼け粒を搾るとワインの雑味につながる可能性があります。①

### 2020年産ピノとメルロの瓶詰め

9月13日、2020年産ピノ・ノワールとメルロのボトリングを行いました(写真▼)。どちらも100%樽熟成させたワインです。2020年はぶどう栽培には大変、いい条件でしたので原料も上質でした。2019年メルロは売り切れでピノ・ノワールも残り僅かですので、ちょうどいいタイミングで



のバトンタッチになります。コロナの影響でレストランなどのお酒の提供ができなくなり、また、観光客の大幅な減少により大きく影響が出ているのは当ワインも例外ではありません。今回のボトリングしたワインもスムーズに販売が進むよう願っています。①

### 3年目のピノ・ノワール

9月22日、2019年に新植したピノ・ノワールが3年目に入り初収穫を迎えました(表紙写真)。ピノ・ノワールのジュースの試作品づくりのため200kgほど収穫しました。糖度は20度とジュースにするには少し糖度が高すぎますが、少し未熟のぶどうもブレンドして糖度を下げて作ってみたいと思っています。①

### ピノ・ノワールジュース

9月23日～24日、ピノ・ノワールのジュースづくりに初挑戦しました(写真▼)。ぶどうジュースづくりは、



収穫ぶどうのワイン用

すぐ出来上がるわけではなく搾汁してから酒石酸が沈殿する期間が必要です。ぶどうを除梗、破碎後二重釜で加熱して色素を抽出します。その後、搾汁して加熱後、容器に入れて一定期間保管して清澄させ酒石酸が沈殿したら上澄み液を取り出して瓶詰めして出来上がりです。今回は試験製造ですので約200kgのピノ・ノワールを処理しました。0℃の冷蔵庫で保管し約3週間後には瓶詰めできる予定です。①

### ぶどうの収穫

9月28日、ワイン用ぶどうの収穫を始めました(写真▲▶)。ミユラー・トゥルガウ、バックスの収穫をしました。その後、ピノ・ノワールの収穫を行いました。今年は、7月～8月の異常な高温と干ばつにより、例年より10日～15日も早い収穫になりました。糖度も20度超えになり、初日は好天に恵まれて気持ちがいい収穫日和でした。収量も期待収量となり、障がい者のみなさんが一生懸命作業にあっていた結果だと感謝の言葉を伝えて収穫を始めました。①



1年目のピノ・ノワールの無農薬栽培試験結果は良好でした(写真▼)。①



## 上富良野高校生 地理の授業

9月8日、地元の上富良野高校1年生30名が地理の授業で来園されました。地元の地形などの学習で、バスで移動しながらこの土地と生活の結びつきを学ぶためです。最後に当農園でこの土地の特徴と農業について、さらに気候と農業などについて実践に基づいて説明させていただきました。高校1年生には理解しづらい話もしましたが、実践されている事実として、伝わったのではと思っています。①



## にんじん危機

9月16日、人参の収穫作業を始めました。今年の人参は、発芽不良と干ばつの影響で小ぶりなうえに割れが入ったものが3割くらいありました。収量が少ない上に拍車をかけるように不良品が大量に発生し、今年のパルシェの原料が大幅に少なくなったこととなります。これだけの減

収は初めてです。ただ、人参の品質はというえぐみがなく高糖度で、おそらく免疫活性値も高いと思われます。無農薬栽培で有機質肥料のみ使用して栽培しています。この人参は、冬場の作業の重要な要素になり、不足すると仕事なくなるようになります。就労継続支援A型事業所の利用者さんの仕事づくりも兼ねているので収量が少ないこ



とはジュースの原料不足のみならず仕事なくなる可能性があります大変なことです。人参畑は雨不足で土が硬くなっており、人参を浮かす機械が土の中に入らないため、スタート地点をスコップで掘って機械を地中に入れるようにしなければなりません。①

## 120周年記念 てぬぐい

9月19日、多田農園創業120周年記念手拭いが出来上がりました。デザインはいつもお願いしているよつば舎のあべみちこさん、染めは創業明治31年近藤染工場さんとともに旭川市在住です。大変、いい出来上がりで120年の良い記念になりました。関係者にプレゼントしてワインショップでも販売することにしました。①

